

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良市立東登美ヶ丘小学校 小泉 麻希
米山 和希
辻本 享世

1. 単元名 「どんなバトンを未来へつないでいきますか？」

2. 単元の目標

- ・50年間の学校の歴史や良さを発見し、学校を支えてくれている地域の人がいることを知る。
(知識及び技能)
- ・受け継がれてきたバトンについて考え、次にどんなバトンをつなぎたいかという思いや願いを言語化し、伝える。
(思考力・判断力・表現力)
- ・自分たちの学校に関心を持ち、次にバトンを渡すために自分たちができることを考えようとする。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、本校が今年創立50周年であることをきっかけに、普段生活を送っている学校の歴史やその歴史を支えてくれている人の想いを知り、学校に関心を持つことで、学校の一員としてできることを考える教材として取り上げる。

東登美ヶ丘小学校校区で、学校の歴史や変遷について詳しく知っている方や、様々な方面で本校を支えてくれている方をゲストティーチャーとして招き、話を聞くことで、学校の歴史を詳しく知ることができる。また、活動についての想いを聞くことで、今自分たちが学校生活を送っていることに対して様々な人の支えがあることに気づき、感謝の気持ちを持つことで学校を大事にしようとする意識を高めることができる。

さらには、相手意識を持ちながら学んだことを様々な方法で作成・発表することができる良さがある。

(2) 児童観

本校第3学年の児童は、一学期に創立50周年のマスコットキャラクター募集や学級での凧作りなど50周年関連の行事にも積極的に参加している様子があった。また、4年生の児童が学習した水についての発表を聞いたことによって、自分たちも多様な方法で資料を作成し、それについての発表をするということへの意欲は高まっているといえる。しかし、普段生活を送っている学校がどのように移り変わって現在に至るのかということについて学んだ経験がない。また、登下校の際に、立哨をしてくれている地域ボランティアの方や学校を長い間支えてくれている人がいること、その方たちへの挨拶や感謝の気持ちが希薄である様子も見られる。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず東登美ヶ丘小学校校区の50年前と現在の写真を提示する。これを通して、50年前と現在という時間軸での違いを気付かせる。その資料を基に、現在の学校について知っていることを自由に出し合う交流をする。そして、本校の50周年のマスコットキャラクターやバトンを提示し、50年前から現在の間にはどのような変化があるのかということやつながれてきたバトンがあるということを意識させたい。

次に、校内をフィールドワークし、学校に何があるのかを確かめる。そして、学校の歴史について詳しく知っている方や、様々な方面で本校を支えてくれている方をゲストティーチャーとして招き、話を聞くことで、学校はたくさんの人に支えられてきたことに気づかせる。また、学校を支

えてくれている人の想いに触れさせる。それらを踏まえ、再度フィールドワークを実施するが、この際学んだことを振り返りながら探索させることを意識させる。これらの活動から、学校の歴史・良さ・想いがバトンにたくさん込められていることに気づかせる。

そして、今度は自分たちがバトンをつないでいくためにどうすればよいかということを考え、資料作成をさせる。作成の際は、多様な発表方法を選択できるようにすることや、相手意識をもって資料作成・発表をするということを促す。

さらには、活動の振り返りとして、多様な見方や考え方をもとに発表をしたことでバトンをつなげる・渡すことができたということを振り返らせ、今後自分がバトンをつないでいくために学校の一員として何かできることはないかを考えさせ、これからの活動にもつなげていくようにする。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

相互性…様々な「もの」や「こと」、人々の思いや願いが関連し合って、今の東登美ヶ丘小学校がある。

連携性…学校を支える様々な立場の人が協力してよりよい東登美ヶ丘小学校を作るために協力し続けてきた。

責任性…バトンをつないでいくのは、自分たちの行動が大切である。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

つながりを尊重する態度：地域の人との関わりを通し、様々な人に支えられていることを自覚する。

進んで参加する態度：東登美ヶ丘小学校の一員として自分にできることはないかと考え、意欲的に関わっていかうとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正：これまでも現在も、様々な人たちが「東登美ヶ丘小学校をよりよい小学校にしたい。」と願って取り組んできた。そして、その思いはこれからもつないでいくべき大切なものである。自分たちがそのバトンを受け継ぎ、小学校を守っていききたい。

・達成が期待される SDGs

4. 質の高い教育をみんなに

1 1. 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 50年間の学校の歴史や良さを発見している。 ② 学校を支えてくれている地域の人がいることを気づいている。	① 受け継がれてきたバトンについて考え、次にどんなバトンをつなぎたいかという思いや願いをもっている。 ② 未来へつなぎたい思いや願いが相手に伝わるように表現している。	① 学校の歴史や良さについて意欲的に調べ、考えようとしている。 ② 自分たちの学校に関心を持ち、次にバトンを渡すために自分たちができることを考えようとしている。

5. 単元の指導計画（全 30 時間）

次	主な学習活動（○）	学習への支援	評価備考
1	<p>みつめる（1時間）</p> <p>○今の学校について知っていることを出し合う。</p> <p>・50年前の写真と今の写真を見比べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・50年前の写真と今の写真を提示し、今との違いに気づかせるようにする。 ・今の学校について知っていることを、自由に交流させる。 ・50周年のキャラクターやバトンを提示して、時間軸を意識させる。 	<p>ア① （知・技）</p>
2	<p>しらべる（8時間）</p> <p>○フィールドワークで、学校のことをさらに知る。（2時間）</p> <p>○学校の歴史について詳しく知っている人に話を聞く。（1時間）</p> <p>○校長先生に話を聞く。（校歌や校章について）（1時間）</p> <p>○校歌について学ぶ。（1時間）</p> <p>○業務員さん、教頭先生に話を聞く。（学校の環境整備について）（1時間）</p> <p>○学校を支えてくれている地域の人に話を聞く。（1時間）</p> <p>○再度フィールドワークをする。（1時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で発見したことをメモさせる。 ・昔と今の学校の変容に目を向けるような声掛けをする。 ・ゲストティーチャーを招いて、学校の歴史を知り、学校はたくさんの人に支えられてきたことに気づかせる。 ・学校を支えてくれている人の想いに触れる。 <p>・今まで学習したことを振り返りながら、フィールドワークさせるようにする。</p>	<p>ア① （知・技）</p> <p>ウ① （主体的）</p> <p>ア② （知・技）</p> <p>イ① （思判表）</p>
3	<p>ふかめる・ひろげる（22時間）</p> <p>○受け継がれてきたバトンについて考える。（1時間）</p> <p>○自分はどんなバトンをつなぎたいか考える。（1時間）</p> <p>○バトンをつないでいくための方法を考える。（1時間）</p> <p>○資料を作成する。（14時間）</p> <p>○学校の歴史・良さ・想いを伝える。（バトンを渡す）（1時間）</p> <p>○活動の振り返りをする。（1時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の歴史・良さ・想いがバトンにたくさん込められていることに気づかせる。 ・多様な発表方法を選択できるようにする。 ・相手意識を持たせて資料を作成させる。 ・自分がバトンをつないでいくために、学校の一員として自分ができていることを考えさせる。 	<p>ウ② （主体的）</p> <p>イ① （思判表）</p> <p>イ② （思判表）</p>

6—① 本時案 (1 / 30)

小泉 麻希

○本時のめあて

「50年前の学校と今の学校の様子をくらべよう」

○本時の展開

	学習活動 ・予想される児童の反応	学習への支援	評価
導 入	<p>○50年前の学校の写真を見る。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p>	<p>・昔の写真を提示することで学校には歴史があることに気づかせる。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">50年前の学校と今の学校の様子をくらべよう</div>			
展 開	<p>○50年前の写真と今の写真を見比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50年前は○○がない。 ・木が今よりも少ない。 ・今と比べて運動場が～～。 <p>○今の学校について知っていることを出しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年が50周年の年だね。 ・中庭には昆虫がいっぱいいるよ。 ・運動場が広くて、いっぱい遊べるよ。 ・木もたくさんあって、桜がきれい。 <p>○50年間受け継がれてきたバトンがあることに気づく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・50年前の写真と今の写真を提示し、今との違いに気づかせる。 ・変わっていないところや今現在も変わり続けているところにも目を向けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・今の学校について知っていることを、自由に交流させる。 ・自分の意見をグループ内で共有させるようにする。 ・グループ毎に発表し、全体で交流もさせるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・50周年のキャラクターやバトンを提示して、時間軸を意識させる。 	<p>ア① (知・技)</p>
ま と め	<p>○次時からの活動を知る。</p>	<p>・自分たちがバトンを受け継ぐには、学校についてさらに知ろうとする意欲と次時への見通しを持たせる。</p>	

○本時のめあて

「受け継がれてきたバトンの中身を考えよう」

○本時の展開

	学習活動 ・ 予想される児童の反応	学習への支援	評価
導入	<p>○フィールドワークやゲストティーチャーにお話を聞いたことを思い出させながら、50年前から受け継がれてきたバトンにはいろいろなこと（学校の歴史・良さ・想い）がまつまっていたことを確認する。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; text-align: center;">受け継がれてきたバトンの中身を考えよう。</div>	<p>・バトンの実物、50周年のマスコットキャラクターを見せる。</p>	
展開	<p>○バトンの中身について出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は、たくさんの人によって築かれてきて、今の学校がある。 ・学校の環境を守ってくれている人がいる。 ・学校には多くの植物、生き物がいる。 ・校章、校歌にはたくさんの願いが込められている。 ・学校を支えてくれている地域の人々がいる。 (図書ボランティア、スクールガードリーダーの方など) <p>○自分が見つないでいきたいバトンの中身について考え、ワークシートに書く。</p>	<p>・しらべるなかでたくさんの気づきがあったことを認める。(最初、学校について知っていたことよりも増えたことを認める)</p> <p>・バトンの役割(受け取って、次へと渡すもの)を確認し、次の活動への意欲につなげる。</p>	イ① (思判表)
まとめ	<p>○次時の活動を知る。</p>	<p>・次の時間は自分が見つないでいきたいバトンをつなげるための方法について考えることを伝え、見通しをもたせる。</p>	

○本時のめあて

「受け取ったバトンをつないでいくためには、どうしたらよいのだろう？」

○本時の展開

	学習活動 ・ 予想される児童の反応	学習への支援	評価
導 入	○本時のめあてを確認する。	・前時にみんなで確認したバトンにたくさん込められている学校の歴史や良さ・想いを確認し、思い出させる。	
	受け取ったバトンをつないでいくためには、どうしたらよいのだろう？		
展 開	○バトンをつないでいくためにできることを考える。 ・学校の歴史や良さ・想いを色んな人に知ってほしい。 ・学校を支えてくれる人のことを忘れずに感謝の気持ちを持ちたい。 ・これからもこの学校を大切にする。 ・自分たちができることを考える。 ○バトンをつないでいくための方法（誰に・どのように）を具体的に考える。 ・4年生が水の大切さを伝えてくれたように、低学年のみんなに伝えにいきたい。 ・支えてくれる地域の人（お家の人）に自分たちが知ったバトンの中身を伝えたい。	・自分の考えをプリントに書き、全体で交流する前にグループでも交流させる。 ・自分たちが実際にできることを意識させるようにする。 ・自分たちにできることの一つとして伝えることに焦点を当てさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・タブレット ・人形劇 ・クイズ形式 ・紙芝居 等 </div>	ウ① (主体的)
ま と め	○次時からの活動を知る。	・次の時間、実際にどのようなバトンを渡したいのか一人ひとりが考え、発表内容や発表方法を考えることを伝え、見通しを持たせる。	

7. 成果と課題

○成果

- ・ゲストティーチャーの方（地域の人、用務員さん等）の話聞くことで、その方たちとの結びつきを子どもたちの中で感じさせることができた。
- ・自分が毎日生活している学校について詳しく知ることで、今の生活を見つめるきっかけになった。
- ・今年50周年という時期に行うことで、さらに実りのある学習計画ができた。（マスコットキャラクターのバトンを活用することで、バトンをつないでいくというテーマができた。）

○課題

- ・時間の取り方の難しさ（ゲストティーチャーの方との予定調整・計画）を感じ、間延びしてしまったので、児童の学びを十分に深めることができなかった。
- ・教師自身、昔の学校の様子や歴史について知らないこと多かったので、児童と一緒に学んでいった。そのことから、手探りな状況で学習を進めていくことになり、児童の疑問や知りたいことに対してすぐに答えてあげることができない時もあった。

8. 単元構想図

○50年前の写真と今の写真を見比べる。

み
つ
め
る

今の学校について知っていることを出し合おう

今年は50周年の年だね。

中庭には昆虫がいっぱいいるよ。

運動場が広くて、いっぱい遊べるよ。

木もたくさんあるね。桜がきれい。

どんなバトンを未来へつないでいきますか？

し
ら
べ
る

- 【学校の歴史について調べよう】→受け継がれきたバトンについて考える。
- 校舎の建て替えがあった。
 - フラワーガーデンが作られて、自然豊かな中庭になった。
 - 校歌ができた。校歌には思いや願いが込められている。
 - 運動場に遊具ができた。
 - 校章は、開校当時の秋に校舎周辺にたくさんの萩の花が咲いていて、その萩の花弁で東を表し、まとまりと成長・発展の意味がこめられている。

学校の歴史について詳しく知っている人に話を聞いてみよう。

学校を支えてくれている人に学校への思いを聞いてみよう。

実際に今の学校を見てみよう。

今の学校はこんな風にバトンがつながれてきたんだなあ。

たくさんの人に学校は支えられてきたんだなあ。

こんなにたくさんの木があったんだ。昆虫もたくさんいる。

ふ
か
め
る

受け取ったバトンをつないでいくためには、どうしたらよいのだろう？

もっと学校のことを色んな人に知ってほしい。

自分たちができることを考えよう。

学校を支えてくれている人のことを忘れてはだめだと思う。

これからもこの学校を大切にしたいな。

ひ
ろ
げ
る

バトンを渡そう！（学校の歴史・良さ・想い）

低学年のみんなに伝えたい。

地域に住んでいる人（お家の人）に伝えたい。